

■ 室蘭港長期構想について

室蘭市港湾部 港湾政策課

1. はじめに

室蘭港は、北海道の南西部の内浦湾東端に位置し、道内一の被覆内水域を有する国際拠点港湾です。同港は室蘭市の中央部に位置し、北側、南側、東側を陸地に囲まれた入江に天然の良港として発展してきました。臨港地区の面積は市街化区域面積の約3分の1を占めており、市街地と一体となった「みなとまち」を形成しております。

古くから、工業港として発展し製鉄業等の製造業を支える港湾として、我が国経済の発展を担ってきておりますが、港湾計画につきましては平成6年に改訂して以降、室蘭港を取り巻く環境に大きな変化が生じていることから、港湾計画の抜本的な見直しが必要な状況となっております。



室蘭港全体写真

2. 室蘭港の現状と特性

室蘭港には、北海道内で最も深い水深16.5mの専用埠頭岸壁等を有しており、岸壁の約6割が専用埠頭となっております。臨港地区内には様々な企業が立地しており、貨物量の9割以上を専用埠頭で取り扱っております。また、令和2年5月には国内最大級のPKS専焼バイオマス発電所が稼働予定となっております。

公共埠頭では、水深14mの崎守埠頭6号岸壁で釜山港を結ぶコンテナ航路が週1便運航されているほか、耐震強化岸壁である入江耐震岸壁、老朽化対策とともに世界最大級の大型クルーズ船対応化も進めている祝津埠頭岸壁等があります。室蘭港の背後には登別温泉、洞爺湖、ニセコ等の観光地が存在しており、平成24年以降、外航クルーズ船寄港回数が増加しております。平成30年6月には10年ぶりとなるフェリー航路が開

設されました。また、地震や台風等の被災実績が少なく、静穏水域を利用した避難船の受入れも担っております。

3. 室蘭港の課題

室蘭港では、船舶大型化に伴い、岸壁の能力を越える大型船の係留要請が増加傾向にありますが、産業立地に適した大ロットの土地が存在しておりません。現在、大型クルーズ船対応化を進めている祝津埠頭岸壁周辺の既存の賑わいエリアとの連結や未利用地の活用策についても検討が必要となっております。また、整備後50年以上経過する係留施設が現状で40%以上、20年度には70%となるため、港湾施設の戦略的な維持管理・更新が必要となっております。

4. 長期構想の策定に向けて

室蘭港港湾計画改訂に先立ち、室蘭港の20～30年後の将来像を検討するため、学識経験者や港湾関係者ら委員30人とオブザーバーで構成された長期構想検討委員会を3回開催し長期構想を策定します。令和元年11月に開催された第1回長期構想検討委員会では、室蘭港の現状と課題について、意見を頂き、令和2年2月に開催された第2回委員会では、「物流・産業」、「人流・賑わい」、「エネルギー」、「環境」、「安全・安心」の5つの方向性を将来像に掲げ議論しました。

「物流・産業」としては、物流基盤を強化し地域産業の競争力向上策として、御崎地区に公共ターミナル配置、築地地区の老朽化した櫛形の岸壁を埋め立てることによる物流機能強化を推し進める方向で検討し、崎守埠頭の鉄道引き込み線を活用した鉄道貨物の受け入れ、AI(人工知能)に対応したターミナル運営を想定しております。

「人流・賑わい」としては、世界の観光客の受入へ祝津埠頭の大型客船対応の整備に合わせた賑わいと交流空間の形成を見込み、小・中型客船は、入江地区、崎守地区はコンテナ船荷役と機能分担を想定しました。

「エネルギー」、「環境」としては、東北の一般海域で整備計画がある洋上風力発電施設の部材の組み立て、積み出しの拠点化、立地企業と連携した水素輸入、利用を想定しております。

「安全・安心」としては、静脈物流船舶の大型化対応や、被災地支援で災害廃棄物の受入などを検討しました。

これまでの議論を踏まえ、長期構想素案を精査し、令和2年5月頃にパブリックコメント(意見公募)を行い、夏頃には、第3回長期構想検討委員会を開催し、長期構想最終案をとりまとめる予定です。

また、これに基づき、令和2年度内に港湾計画を改訂する予定となっております。



令和2年2月19日開催 第2回長期構想検討委員会

■ 苫小牧港とバンクーバー港が LNG バンカリングの促進に向けた覚書を締結

苫小牧港管理組合

苫小牧港とカナダブリティッシュコロンビア州のバンクーバー港が3月5日にバンクーバー港湾局において「LNG バンカリングの促進に向けた覚書」を締結しました。

アジア側の最東端に位置する苫小牧港は、フェリーや RORO 船等の中長距離定期航路が週 120 便ほど就航する、海上取扱貨物量が国内 4 位である北日本最大の国際拠点港湾です。一方、北米西岸の最西端に位置するカナダ・バンクーバー港は、フェリーや RORO 船、自動車専用船等が就航している、海上取扱貨物量が北米 3 位であるカナダ最大の港湾です。両港間で積極的

に LNG バンカリングに関する情報交換等の連携を行うことで、両港の内航船舶及びアジアと北米を結ぶ太平洋を横断する国際船舶の LNG 燃料の更なる普及促進を図り、IMO(国際海事機関)による排出ガス規制の強化や温室効果ガス(GHG)削減等に貢献を目指すべく、このたび、船舶の LNG 燃料の普及及び LNG バンカリングの促進に関する覚書を締結しました。今後、環境にやさしい港湾拠点形成が進むことを期待するものです。

詳細は苫小牧港管理組合ホームページをご覧ください「<http://www.jptmk.com>」。

